

この世の中で何を掴みたいのか分からないけど精一杯がんばりたいと思っています。たまには美味しい物でも食べに行ってください。あとハナちゃん、もう少しでな。

† 沖縄ダルクを退寮した仲間からのメッセージ †



朝日新聞東京本社

2009年 平成21年

6月9日 火曜日

夕刊

薬物にKOされるな

プロボクシング・元日本スパー・ウェルター級1位の川崎タツキさん(37)は今、人々に薬物の怖さを訴えている。20歳で薬物中毒になり、自殺を図ったこともあった。どん底から立ち直り、デビューした経緯を語る。

「覚せい剤、大麻、コカイン、ヘロイン、LSD、MDMA。全部はまっちゃった」

警視庁が先日4日に東京都中央区の警察博物館で開いた薬物乱用撲滅特別展で、川崎さんは過去を話し始めた。見た目は反抗期の優しい声で、舌はずかに話す。だが、一被審察想から、河原で包丁を持って人を殺そうとしたこともある。両親は皆壮絶な死を遂げた。川崎さんは17歳で母を亡くした。反抗期だった中学時代、父と一対一の闘いが警察を呼

元プロボクサー・川崎さん



子どもにボクシングを教える川崎タツキさん(左)＝東京都足立区

「自分を大切に」訴え

おぼろげな大げんかを繰り返さないか」と尋ねられたことがあった。愛き晴らしに外でも暴れ、きつかけだった。「クスリで家から離れたいあまり暴力団事務所に寝泊まりするようになり、少年院に2度入った。薬物に手を染めたのは、20歳の頃だ。知人に「手にい

デイズ DAYS

川崎タツキ
10/3(土) 開催の
15th沖縄ダルク
フォーラムに
出演予定

東京で働き始めたころ、ボクシングに誘われた。ボクシングは中学生の頃に将来有望と言われたことがあり、本練があった。多くが20代のうちに引退する世界で、28歳で遅咲きのプロデビュー。初戦には父も招待できた。

後は姉の家で包丁を使って手を首を切り、自殺を図った。「苦しくて死にたくて仕方なかった」。精神科病院に入院した。そして24歳のとき、薬物依存者が回復を目指す自助組織・沖縄ダルクに入った。立ち直ったきっかけは、姉との電話だった。

沖縄ダルクに来てから1年がたとうとしていたころだった。「優香が待ってるよ」。20歳からつき合っている。見守ってくれていた彼女が知り、目が覚めた。東京に戻る

近所の公園に家族3人で散歩するたびに平和な気分になり、喜びをかみしめる。「クスリをやって一番苦しい思いをするのは家族とわかった。家族を大事にして欲しい」。そう思いながら講演を続ける。(河野正樹)